

女性の社会的地位を向上させるには

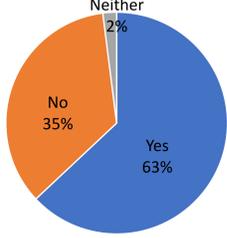
鹿児島県立国分高校 普通科 自主ゼミ ジェンダー班

はじめに ~昨年の先輩たちの発表を聞いて~

What would encourage more women in Kagoshima to play an active role in society?

- ・全国の女性の就業率は、福井県が最も高い。
- ・福井県と鹿児島県で女性の就業率を比較した結果、6.5ポイントの差があった。

家事はあなたにとって負担になっていますか



研究の動機

先輩方の先行研究から、女性が家事を負担に思っていることが分かった。そこで、「女性の社会的地位の向上を阻んでいる要因が**家事の負担**にあるのではないか」と考え、研究を始めた。

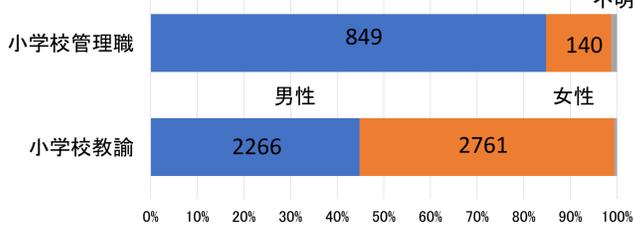
研究1 鹿児島県の公立学校における教諭・管理職の男女比

◆調査方法◆

女性の社会進出の一つの尺度として学校の管理職に着目した。「2019年度版、鹿児島県教職員録」を用いて、教諭・管理職をそれぞれ小・中・高、男女別に正の字でカウントした。

◆結果◆

1) 小学校



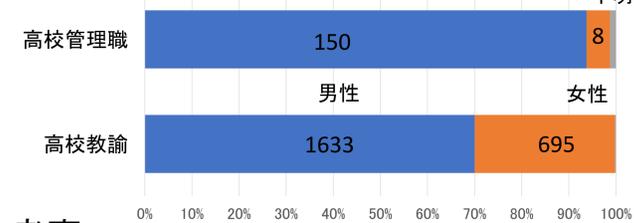
小学校では教諭は女性のほうが多い(54.6%)にもかかわらず、管理職は男性より女性がずっと少ない(14.0%)。

2) 中学校



中学校では教諭も女性の方が少ない(33.7%)が、管理職ではさらに少ない(10.4%)。

3) 高校



高校では女性教諭が中学校よりさらに少なく(30.0%)、女性管理職は極めて少ない(5.0%)。

考察

- ・鹿児島県の公立の小・中・高における女性の管理職の数は、教諭の割合から期待される数に比べて**有意に少ない**(χ^2 検定 $p < 0.05$)。
- ・女性は産休や育休などを取っている場合もあるため、管理職になる数が少ないのではないかと。

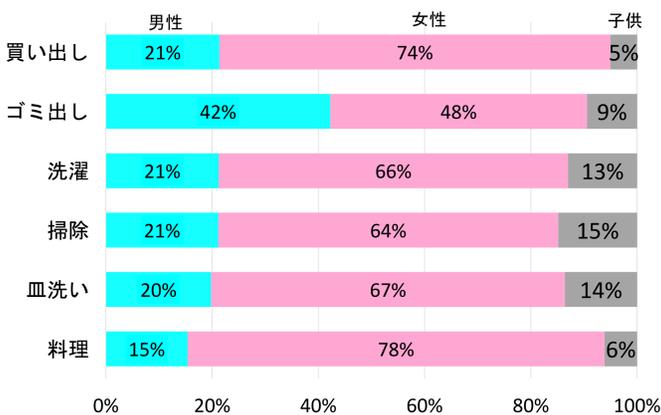
研究2 家庭における男女の家事負担割合(独自調査)

◆調査方法◆

国分高校1年生全員(319名)、他県3校(234名)とマレーシアの高校生(8名)を対象者に家庭における家事の負担の割合についてアンケートを行った。

子供の目線でざっくりと負担の割合を数値で記入してもらった。

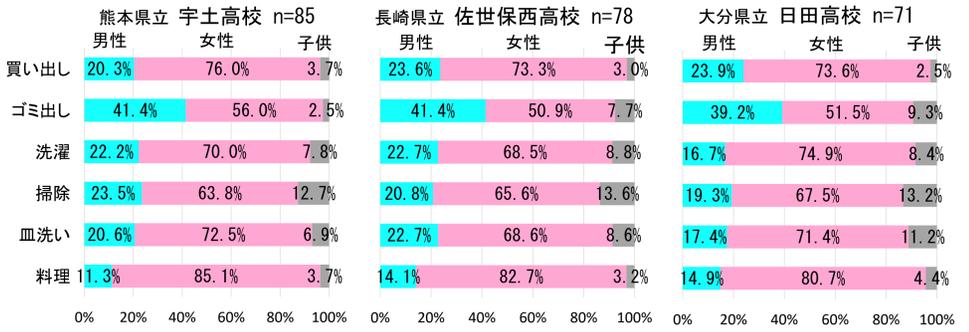
◆結果①◆国分高校1年生 n=319



・家事の負担割合は多くの家事において男性約20%、女性約70%となっており、男性と女性の家事の負担の格差が明確になった。

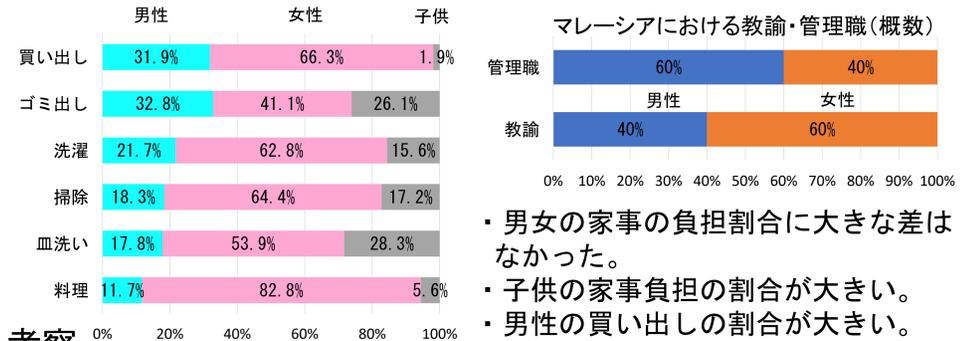
・ゴミ出しにおける男性の負担割合が他の家事にの約2倍になっている理由は、出勤のついでに短時間で行えるからだと思われる。

◆結果②◆他県の高校(熊本県, 長崎県, 大分県)



- ・男女の家事の負担割合は国分高校(鹿児島県)と大きな差はなかった。
- ・男性のゴミ出しの割合は約4割で県外も同様の結果がみられた。
- ・全ての高校に共通して、子供の負担割合が高いのは掃除であった。

◆結果③◆マレーシア セントフランシス高校 n=8



- ・男女の家事の負担割合に大きな差はなかった。
- ・子供の家事負担の割合が大きい。
- ・男性の買い出しの割合が大きい。

考察

女性の管理職が多いマレーシアと比較した結果、大きな差が見られなかったことから家事の負担が女性の社会的地位の向上を阻んでいる要因ではない。

研究3 女性管理職の方へのインタビュー

◆調査方法◆

顧問の先生や校長先生を通してアポをとってもらい、考査の最終日等にインタビューをさせていただいた。甲南高校 西橋瑞穂 校長先生
霧島市教育委員会 近藤伸子先生(元校長)



- ・職場(教員)で男女差を感じることはありますか?
→教員の世界ではあまりない。昔は育休が一年間しか取れなかったため、チームを作って急用などがあっても休みやすい環境を作った。
- ・女性の管理職の割合が男性より低いのはなぜだと考えられますか?
→管理職になりたいと思っていない女性が多いのでは? これまでの環境と受けてきた教育が影響していると思う。
モデルが少ないことで生じている悪循環ではないか?。
- ・女性の管理職の割合を増やすためにはどうすればよいと考えますか?
→外国は管理職の給与が高く、希望者も多い。**待遇面を改善**しては。
→育児休暇を取りやすく、元のポジションに戻りやすい**法的な整備**を。
→外国では小学生でも自分の意見をはっきり言えるが、日本人は自己主張をすることに慣れていない。男子も女子も小さい時から正しい**自己主張をする土壌(教育と環境)**が必要なのでは。
- ・今後、女性の管理職の割合は増えていくと思いますか?
→増えると思う。なぜなら**仕事に就く女性が増加**しているから。
女性が管理職に就くことにより、男性では気づかない細かいところに気づくという利点がある。
→女性を輝かせるためにどうしようか考える男性がいれば現状を改善できると思う。

総合考察

- ・「家事の負担の大きさが女性の社会的地位の向上を妨げているのではないかと仮説を立てて研究を進めたが、日本とマレーシアの家事の負担割合に大きな差がなかったことから、**仮説は正しいとは言えない**ことが分かった。
- ・女性管理職へのインタビューを通して、「**女性の意識**」の問題に気が付いた。女性自身が社会的地位を向上させようという意識(志)を持つこと、そしてそう思える環境と教育、男性側の理解と協力も必要である。悪循環から脱却して女性の社会的地位を向上させ、**女性の能力を最大限に発揮できる(輝ける)社会**を

目指して、*Girls and Women, be ambitious!*

謝辞 多くの方々にご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

鹿児島県立甲南高校 西橋瑞穂校長先生
霧島市教育委員会 近藤伸子先生
鹿児島県立国分高校 楠本務校長先生
鹿児島県立国分高校 有村光代事務長

熊本県立宇土高等学校
長崎県立佐世保西高等学校
大分県立日田高等学校
マレーシア セントフランシス高校

参考文献

- ・2019年度版 鹿児島県教職員録
- ・令和元年度版 全国高等学校一覧